



一人ひとりが一人の人間として大切にされる社会を目指します

社会のあらゆる分野に女性の参画が必要です

先ごろ、「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が施行されましたが、国会議員に占める女性の割合は参議院議員20・7%、衆議院議員10・1%で、国際的には世界193か国中160位（平成30年5月現在）と低い状況です。

大崎市でも、市のさまざまな政策・方針を決定する場に女性の参画を増やす取組みを行っていますが、市の各種委員の女性割合は、いまだ少ない状況です（下表参照）。

また、一般的にも、組織の代表や役員は男性が多いのですが、ものごとを決定・実施・検証する際には、多様な視点や立場からの議論が必要です。

大崎市の各種委員等の女性登用状況 H30.4.1現在

	総数	うち女性人数	女性の割合
審議会等委員（審議会数42）	876人	246人	28.1%
行政委員会等（委員会数5）	41人	13人	31.7%
行政区域長	362人	3人	0.8%
市議会議員	30人	3人	10.0%
市職員管理職（一般行政職）	82人	9人	11.0%

女性人材リスト（委員候補者）への登録を

市では、女性が政策・方針決定の場に参画できる機会をつくるため、「女性人材リスト」の登録制度を設けています。

女性のみなさんにご希望する活動分野を登録していただき、市内の担当課が、審議会委員の候補者や、研修会・講座の講師をさがすときなど、男女共同参画推進室が担当課にご紹介いたします。ぜひ登録をお願いいたします。

応募対象者 以下のすべての条件に当てはまる方

- ・18歳以上の女性の方（高校生を除く）
- ・市内に在住または勤務もしくはは通学している方
- ・市政に関心があり、ご自身の経験・知識などを発揮したいとお考えの方

※女性人材リストは、候補者としての登録になります。実際に委員や講師をお願いする際は、市からご本人のご都合を確認いたします。

お問い合わせは男女共同参画推進室へ（裏面）

## リレー コラム

### 「青年」の可能性

～ 自分の仕事は、「自分ができること」～

毎年1月に、パレットおおさきを会場に青年文化祭「ユースフェスティバル」を開催しています。「青年」というと男性を指す場合が少なくないのですが、実行委員会の男女比は半々、その年によっては女性の方が多いかもしれません。

基本的に男女で役割を分けたことはなく、男性でも司会をしますし、女性でも力仕事をお任せする場合があります。仕事は肩書や年齢、経験年数ではなく「自分ができること」をするようにしているからです。

例えばアクセサリーを作れる人がいれば、ワークショップブースをお任せする。イラストを本業にしている人がいれば、ポスターやチラシをデザインしてもらおう。その人が得意な分野、スキルを活かせることを第一に考えます。そしてみんな見事にそれをやってのける。

反面限られた予算のなか、仕事や学業の合間に準備を進める苦労は並大抵ではありません。泣きそうになったこともあります。しかし、互いの可能性を否定せず、イベントとして形にし、努力が結実したとき、決して無駄な時間ではなかったと気づかされます。少しでも彼ら彼女らの活躍が伝われば、望外の幸せです。

大崎地方青年文化祭実行委員 西澤 郁輔さん





地域で輝く女性たちを紹介します

株式会社ミヤコーバス 古川営業所

佐 々 木 宏 美 さ ん

— 市民バスの運転士として 奮闘しています —

「バスの運転士になって2年になります。お客様がバスを降りるときにはじめて、女性が運転していると分かり、驚かれたこともありますよ」と話すのは、株式会社ミヤコーバス古川営業所に勤務し、市民バスに乗務する佐々木宏美さんです。佐々木さんが大型免許を取得したのは21歳のとき。バスの運転士をしていたお父様の影響とのことですが、その当時は「運転士の世界は男性の職場」だと思い、夢を実現できずにいたそうです。そして、子育てが一段落したとき二種免許を取得し、バス会社の求人に応募。古川営業所初の女性運転士となりました。

この仕事のやりがいとは？と聞くと「大きな乗り物を自分の思うとおりに動かせるのが魅力です。運転そのものが好きなんじゃないかな」と、朝早くから夜遅くまでの運転業務で忙しい毎日ながら、楽しく仕事を続けられています。現在、古川営業所29名の運転士のうち、女性は佐々木さんを入れて2名。基本的に男性運転士と同じ業務をこなされていますが、力を要する作業のときなどは、男性の手を借りているそうです。

「長時間勤務となることもあり、仕事を続けるためには家族の理解と協力が必要だと感じることも多いです。でも、お客さまからの『今日は雪で大変だね』とか『がんばってね』の些細な一言が、励みになっているんです」と、今日も市民バスで、市民みなさんを安全に目的地に送り届ける、佐々木さんでした。



最初は「あら、女の人すかや」とびっくりされましたが、大丈夫です！

家事・育児参画の第一歩！



始めてみませんか？

「イクメン」「イクボス」などの言葉がよく聞かれるようになりましたが、内閣府では昨年6月から「おとう飯始めようキャンペーン」を実施しています。これまで、料理なんかできない、立派なものを作らなければいけないと料理を敬遠していた子育て世代の男性などに向け、「いいんです。“おとう飯”ならいいんです！」と、心のハードルを下げて始めることを呼びかけています。

平成27年8月には「女性活躍推進法」が成立しましたが、女性の活躍や少子化対策を推進させていくためには、男性が積極的に家事・育児に参加することが重要であると言われています。現状では、日本の男性の育児休暇取得率はまだ1割弱ですが、積極的に子育てを楽しみ、関わる男性が増えてきています。

これから「イクメン」を支援する企業が増え、男性が育児休暇を取得しやすくなれば、男性の生き方はもちろん、女性の生き方も子どもを取り巻く環境も変わり、家族のあり方に変化が現れてくるのではないのでしょうか。仕事も家事・育児も楽しいことばかりではありませんが、長い人生の少しの期間を、家族や子どものために費やす喜びを多くの方が経験できるよう、社会全体で取り組むことが必要です。



さあ、この週末は「おとう飯」づくりに挑戦してみませんか？

- ※「イクメン」・・・積極的に子育てを楽しみ、自らも成長する男性のこと。将来的にそうありたいと願う男性も含む。(コトバンクより)
- ※「イクボス」・・・男性の従業員や部下の育児参加に理解があり、積極的に支援する経営者や上司のこと。(コトバンクより)
- ※「おとう飯」・・・「簡単に、手間を掛けず、多少見た目が悪くても美味しければ、それが“おとう飯”。」(内閣府HPより)

おおさき男女共同参画推進ニュース『With』では、みなさんのご意見・感想・情報をお待ちしております。  
大崎市市民協働推進部まちづくり推進課 男女共同参画推進室  
電話 23-2103 Fax: 23-2427 E-mail: machi@city.osaki.miyagi.jp